



上記が身体の構造であったとして、矢印の方向に時間が進行し、症状が変化する。赤が発症から最盛期の緑部分に、青が最盛期から治癒に至る経路。黄色部分が水筒ウイルスの潜伏神経部位だとして、影響が緑部分に至り、引き返してくると考えると分かりやすい。この図では、皮膚症状を呈しないが、ウイルスの影響で、肩こり・首こり・ピリピリ感が生じることを説明できる。